

三原二中校長通信

校訓「響き合う二中っ子」

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

第6号

平成22年9月15日

楽しい道徳授業の創造—相互作用の充実

1 ねらいに迫る適切な資料の選択と資料提示・資料活用の工夫

(1) 道徳的思考(道徳的価値に係る思考)をしてみたいくなるような資料

○主人公と主人公を取り巻く登場人物との相互関係が描かれ、その中で主人公がどんな道徳的価値に基づいて行為したのか(行為しようとしているのか)が盛り込まれた資料

○道徳的論点(道徳的価値に係る論点)が明確になっている資料

○主人公の立場になって考えてみたいくなるような資料—感動のある資料、判断を求められる資料

(2) 資料提示の工夫

○パネルシアターによる資料提示

○場面絵による資料提示

○映像(ビデオ教材)による資料提示

○役割演技等による資料提示—チーム・ティーチング

○体験を生かした資料提示—自作資料化

(3) 資料活用の工夫

① 共感的な活用

生徒一人一人を資料中の主人公(またはそれ以外の人物)になりきらせて想像させ、自分の価値観に基づく判断や心情を主人公(またはそれ以外の人物)に託して考えさせ・語らせる活用方法。

② 範例的な活用

主人公の行為、判断、心情などを生徒一人一人に十分に理解させ、このような場合にこのようなことをすればこのような結果を招くことになるという指導に重点をおく活用方法。

③ 批判的な活用

生徒一人一人に主人公の行為、判断、心情などを批判させたり弁護させたりすることを通して、ねらいとする価値の理解を深めさせる活用方法。

④ 感動的な活用

資料のもつ感動性を特に重視し、なぜこのように自分は感動したのか、なぜ友達は感動したのかを追究させることに重点をおく活用方法。

2 指導過程の基本型—4段階

(1) 導入

① ねらいとする価値への方向づけ(道徳学習への動機づけ)

② 過去の体験を想起

(2) 展開前段

① ねらいとする価値の把握と追究(資料活用→道徳的論点の明確化→道徳的価値の類型化→道徳的思考→道徳的葛藤討議)

(3) 展開後段

① 生活を振り返ることによる、現在の自己の価値観への気づき(道徳的思考→道徳的葛藤討議→価値の一般化→道徳的価値の内面的自覚)

(4) 終末

① 学習の整理・まとめ(道徳的実践意欲と態度の向上)

② 心のノートの活用

3 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める展開

(1) 道徳的実践力の育成と深くかかわらせる

- ① 道徳的心情を豊かにする
- ② 道徳的判断力を高める
- ③ 道徳的実践意欲と態度を向上させる

(2) 魂の助産術—「聞く(聴く)・答える・問い返す」←ソクラテス的問答, ソクラテスの「対話」

(3) 他律から自律へ

(4) 役割取得—主人公及び主人公を取り巻く登場人物の立場に立って考え・判断し・表現すること

(5) 均衡化への志向—妥当性の高い倫理的見解の共有←自分の考えと他者の考えを比較し・吟味すること

4 道徳性の発達段階を意図した展開—相互作用(対話)の重視

(1) 異質性への気づき

(2) 同質性の確認

(3) 個を大切にしたい指導—個に応じた指導

(4) コールバーグの3レベル6段階(道徳性の発達段階)の活用—中心発問に対する生徒の反応の想定と教師のパイロット役

5 自ら考えることを大切にする授業—聞く(聴く)先生, 待つ先生

6 感動のある, 心に残る授業

(1) 発問の工夫—中心発問・基本発問・補助発問

(2) 道徳的葛藤(倫理的葛藤)の工夫⇔心理的葛藤

(3) 心のノートの活用の工夫—補助資料として

(4) 地域のプロをゲストティーチャーとして活用する工夫

(5) 体験を道徳の授業に生かす工夫

7 道徳的推論(道徳的価値に基づく推論)をさせること

8 コールバーグ理論(道徳性の発達の段階「3レベル6段階」)及び青木孝頼試案(価値観の4類型)を活用した道徳的葛藤(倫理的葛藤)

(1) 中心発問に対して子どもたちから出てくるであろうさまざまな意見を, 主題のねらいにかかわって, 道徳性の発達の段階及び価値観の類型に即して整理・分類しておく。—展開前段及び展開後段→道徳的思考(道徳的価値に係る思考)

(2) 資料—満員電車の中で自分の前に立っているお年寄りにどう対応したらよいか迷っている主人公。 —内容項目2(2)「親切」「思いやり」

☆ 本人や周囲の人から席を譲るように言われたくないから, 席を譲る。(段階1)[罰回避]

☆ 周囲の人が見ているから, 席を譲る。(段階2)[損得勘定]

☆ お年寄りがつらそうにしているから席を譲る。(段階3)[良い子]

☆ お年寄りには席を譲るものである。(段階4)[ルールの尊重]

(3) 主題のねらいとする価値について, 学級全員の道徳性の発達の段階及び価値観の類型を事前に授業者が「4段階」及び「4類型」を用いて評価しておいたものと, 展開後段で子どもたちが自己の道徳性の発達の段階及び価値観を「4段階」及び「4類型」のどれに当てはまるかを意思表示(自己評価)した結果とを比較して, 両者の一致度を調べる。(道徳性の評価)

9 資料分析による授業展開の組立て

○ 発問, 予想される生徒の反応, 道徳的価値の類型化・道徳的価値の葛藤, 育てたい論理力, 相互作用(対話)の場面設定

10 板書計画—構造化

○ 道徳的思考のプロセス

○ 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めるプロセス

○ 道徳的実践力(道徳的心情・道徳的判断力・道徳的実践意欲と態度)の育成につながるプロセス

11 総合単元的な道徳学習の要としての道徳の授業—体験の経験化・体験の言語化

12 ワークシートの活用—考える力(思考力)・判断する力(判断力)・書く力(表現力)